

Parallel STL 入門ガイド

[Alexey M. \(Intel\)](#)、[Andrey F. \(Intel\)](#)

この記事は、2018 年 6 月 12 日時点の、インテル® デベロッパー・ゾーンに公開されている「[Getting Started with Parallel STL](#)」の日本語訳です。

Parallel STL は、一般に C++17 と呼ばれる C++ 標準の次期バージョンの Working Draft N4659 で指定されている、実行ポリシーをサポートする C++ 標準ライブラリー・アルゴリズムの実装です。この実装は、ISO C++ Working Group Paper P0076R3 で指定されている、順序関係が存在しない実行ポリシーもサポートしています。

Parallel STL は、インテル® プロセッサ向けアルゴリズムの並列実行とベクトル実行の両方を効率的にサポートします。シーケンシャル実行は、C++ 標準ライブラリーの利用可能な実装に依存します。

Parallel STL は、インテル® Parallel Studio XE およびインテル® System Studio の一部として利用できます。

準備

Parallel STL を使用するには、次のソフトウェアをインストールする必要があります。

- 次の機能をサポートする C++ コンパイラー:
 - C++11
 - OpenMP* 4.0 SIMD 構造
- インテル® スレッディング・ビルディング・ブロック (インテル® TBB) 2018

Parallel STL アルゴリズムのパフォーマンスを引き出すには、最新バージョンのインテル® C++ コンパイラーを推奨します。

コマンドラインで Parallel STL を使用するアプリケーションをビルドするには、コンパイルとリンクの環境変数を設定する必要があります。これらの環境変数を設定するには、`compilervars.{sh|csh|bat}` のようなスイートレベルの環境スクリプトを呼び出すか、`<install_dir>/{linux|mac|windows}/pstl/bin` で `pstlvars.{sh|csh|bat}` を実行して Parallel STL の環境変数を設定します。

`<install_dir>` はインストール・ディレクトリーです。デフォルトでは次の場所にあります。

Linux* および macOS*:

- スーパーユーザーの場合: `/opt/intel/compilers_and_libraries_<version>`
- 通常のユーザーの場合: `$HOME/intel/compilers_and_libraries_<version>`

Windows*:

- <Program Files>¥IntelSWTools¥compilers_and_libraries_<version>

Parallel STL の使用

次の手順に従って、アプリケーションに Parallel STL を追加します。

1. コンパイラーのインクルード・パスに <install_dir>/pstl/include フォルダを追加します。スクリプトを使用する場合は pstlvars スクリプトを呼び出します。
2. コードに #include "pstl/execution" を追加します。次に、使用するアルゴリズムに応じて、次の行のサブセットを追加します。
 - #include "pstl/algorithm"
 - #include "pstl/numeric"
 - #include "pstl/memory"
3. アルゴリズムと実行ポリシーを使用するとき、C++17 標準ライブラリーのベンダー実装がない場合は std::execution 名前空間、その他の場合は pstl::execution 名前空間を指定します。この後の「サンプル」セクションを参照してください。
4. 実装されているアルゴリズムでは、呼び出しの最初の引数として値の 1 つ (seq、unseq、par または par_unseq) をアルゴリズムに渡して、実行ポリシーを指定します。ポリシーには次の意味があります。

実行ポリシー	意味
seq	シーケンシャル実行。
unseq	SIMD を使用します。提供されているすべての関数が SIMD セーフである必要があります。
par	マルチスレッドを使用します。
par_unseq	unseq と par の効果を組み合わせます。

5. コードを C++11 (またはそれ以降) としてコンパイルし、ベクトル化のコンパイラー・オプションを使用します。
 - インテル® C++ コンパイラーの場合:
Linux* および macOS*: -qopenmp-simd または -qopenmp
Windows*: /Qopenmp-simd または /Qopenmp
 - ほかのコンパイラーの場合は、OpenMP* 4.0 SIMD 構造を有効にするオプションを使用します。

優れたパフォーマンスを得るには、ターゲット・プラットフォームを指定します。Intel® C++ コンパイラーの場合、適切なオプションは次のとおりです。

- Linux* および macOS*: `-xHOST`、`-xSSE4.1`、`-xCORE-AVX2`、`-xMIC-AVX512`
- Windows*: `/QxHOST`、`/QxSSE4.1`、`/QxCORE-AVX2`、`/QxMIC-AVX512`

異なるコンパイラーを使用している場合は、そのコンパイラーのドキュメントを参照してください。

6. 並列処理を行うには Intel® TBB ダイナミック・ライブラリーとリンクします。Intel® C++ コンパイラーの場合、次のオプションを使用します。

- Linux* および macOS*: `-tbb`
- Windows*: `/Qtbb` (オプション、`#pragma comment(lib, <libname>)` で処理)

バージョンマクロ

バージョンに関するマクロを次に示します。これらのマクロは再定義すべきではありません。

`PSTL_VERSION`

現在の Parallel STL のバージョン。値は、`xyy` 形式の 10 進数です。ここで、`x` はメジャーバージョン番号、`yy` はマイナーバージョン番号です。

`PSTL_VERSION_MAJOR`

`PSTL_VERSION/100`; つまり、メジャーバージョン番号。

`PSTL_VERSION_MINOR`

`PSTL_VERSION - PSTL_VERSION_MAJOR * 100`; つまり、マイナーバージョン番号。

マクロ

`PSTL_USE_PARALLEL_POLICIES`

このマクロは、並列ポリシーの使用を制御します。

0 に設定すると、`par` および `par_unseq` ポリシーが無効になり、これらのポリシーを使用するとコンパイルエラーになります。`unseq` ポリシーのみを使用するベクトル化されたコードで、Intel® TBB ランタイム・ライブラリーへの依存を回避するために推奨します。

マクロが定義されていない場合 (デフォルト)、またはマクロが非ゼロ値に評価された場合、すべての実行ポリシーが有効になります。

PSTL_USE_NONTEMPORAL_STORES

このマクロは、unseq ポリシーのアルゴリズム `std::copy`、`std::copy_n`、`std::fill`、`std::fill_n`、`std::generate`、`std::generate_n` で `#pragma vector nontemporal` を使用できるようにします。プラグマの詳細は、『**インテル® C++ コンパイラー・デベロッパー・ガイドおよびリファレンス**』 (<https://software.intel.com/en-us/node/524559>) (英語) を参照してください。

マクロが非ゼロ値に評価された場合、`#pragma vector nontemporal` を使用できるようにします。

マクロが定義されていない場合 (デフォルト)、または 0 に設定された場合、マクロは何も行いません。

サンプル

サンプル 1

このサンプルはベクトル化された `copy` を呼び出します。

```
#include "pstl/execution"
#include "pstl/algorithm"
void foo(float* a, float* b, int n) {
    std::copy(pstl::execution::unseq, a, a+n, b);
}
```

サンプル 2

このサンプルは `fill_n` の並列化バージョンを呼び出します。

```
#include <vector>
#include "pstl/execution"
#include "pstl/algorithm"

int main()
{
    std::vector<int> data(10000000);
    std::fill_n(pstl::execution::par_unseq, data.begin(), data.size(), -1);
    // ベクトルを -1 でフィル
    return 0;
}
```

実装されているアルゴリズム

Parallel STL は、次の表にリストされているアルゴリズムでのみ、前述のすべての実行ポリシーをサポートします。その他の C++ 標準ライブラリ・アルゴリズムにポリシー引数を追加すると、シーケンシャル実行になります。

アルゴリズム	cppreference.com のアルゴリズム・ページ (英語)
adjacent_find	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/adjacent_find
all_of	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/all_any_none_of
any_of	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/all_any_none_of
copy	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/copy
copy_if	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/copy
copy_n	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/copy_n
count	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/count
count_if	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/count
destroy	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/destroy
destroy_n	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/destroy_n
equal	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/equal
exclusive_scan	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/exclusive_scan
fill	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/fill
fill_n	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/fill_n
find	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/find
find_end	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/find_end
find_first_of	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/find_first_of
find_if	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/find
find_if_not	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/find
for_each	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/for_each
for_each_n	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/for_each_n
generate	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/generate
generate_n	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/generate_n
inclusive_scan	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/inclusive_scan

is_heap	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/is_heap
is_heap_until	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/is_heap_until
is_partitioned	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/is_partitioned
is_sorted	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/is_sorted
is_sorted_until	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/is_sorted_until
lexicographical_compare	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/lexicographical_compare
max_element	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/max_element
merge	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/merge
min_element	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/min_element
minmax_element	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/minmax_element
mismatch	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/mismatch
move	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/move
none_of	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/all_any_none_of
partial_sort	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/partial_sort
partition_copy	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/partition_copy
reduce	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/reduce
remove_copy	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/remove_copy
remove_copy_if	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/remove_copy
replace	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/replace
replace_copy	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/replace_copy
replace_copy_if	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/replace_copy
replace_if	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/replace
search	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/search
search_n	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/search_n
sort	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/sort
stable_sort	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/stable_sort
swap_ranges	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/swap_ranges
transform	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/transform

<code>transform_exclusive_scan</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/transform_exclusive_scan
<code>transform_inclusive_scan</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/transform_inclusive_scan
<code>transform_reduce</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/transform_reduce
<code>uninitialized_copy</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/uninitialized_copy
<code>uninitialized_copy_n</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/uninitialized_copy_n
<code>uninitialized_default_construct</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/uninitialized_default_construct
<code>uninitialized_default_construct_n</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/uninitialized_default_construct_n
<code>uninitialized_fill</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/uninitialized_fill
<code>uninitialized_fill_n</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/uninitialized_fill_n
<code>uninitialized_move</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/uninitialized_move
<code>uninitialized_move_n</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/uninitialized_move_n
<code>uninitialized_value_construct</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/uninitialized_value_construct
<code>uninitialized_value_construct_n</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/memory/uninitialized_value_construct_n
<code>unique_copy</code>	http://en.cppreference.com/w/cpp/algorithm/unique_copy

既知の制限

ランダム・アクセス・イテレーターが提供される場合、並列実行とベクトル実行は前述のアルゴリズムのサブセットでのみサポートされ、残りの実行はシリアルのままです。

著作権と商標について

最適化に関する注意事項

インテル® コンパイラーでは、インテル® マイクロプロセッサに限定されない最適化に関して、他社製マイクロプロセッサ用に同等の最適化を行えないことがあります。これには、インテル® ストリーミング SIMD 拡張命令 2、インテル® ストリーミング SIMD 拡張命令 3、インテル® ストリーミング SIMD 拡張命令 3 補足命令などの最適化が該当します。インテルは、他社製マイクロプロセッサに関して、いかなる最適化の利用、機能、または効果も保証いたしません。本製品のマイクロプロセッサ依存の最適化は、インテル® マイクロプロセッサでの使用を前提としています。インテル® マイクロアーキテクチャーに限定されない最適化のなかにも、インテル® マイクロプロセッサ用のものがあります。この注意事項で言及した命令セットの詳細については、該当する製品のユーザー・リファレンス・ガイドを参照してください。注意事項の改訂 #20110804

Intel、インテル、Intel ロゴは、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

© Intel Corporation.

コンパイラーの最適化に関する詳細は、[最適化に関する注意事項](#)を参照してください。